

# (仮称) J R E 鏡野風力発電事業 環境影響評価方法書に対する意見書

令和 4 年 5 月 1 8 日 提出

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社  
代表取締役 中川 隆久 様

日本野鳥の会岡山県支部  
支部長 丸山健司  
〒704-8182 岡山県岡山市東区広谷 458-1

日本イヌワシ研究会  
岡山地区委員 齊木 孝  
〒709-0514 岡山県和気郡和気町佐伯 366-1

公益財団法人 日本野鳥の会  
理事長 遠藤 孝一  
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

貴社が作成された（仮称）J R E 鏡野風力発電事業環境影響評価方法書に対し、環境保全の立場から下記の通り意見書を提出致します。

## 記

### I. 対象事業実施区域における鳥類の生息状況を踏まえた意見

（仮称）J R E 鏡野風力発電事業環境影響評価方法書（以下、方法書という）について貴社が設定する対象事業実施区域（以下、計画地という）は、先の計画段階環境配慮書に対する意見書でも述べているとおり、イヌワシの生息確認域であり、また、クマタカの複数ペアの生息地と重なることが予想され、大規模風力発電施設（以下、大規模風車という）の建設により衝突死（以下、バードストライクという）、さらには取付道路の建設等による山地の環境改変等により生息地放棄が発生する可能性が高い。また、計画地とその周辺はサシバ、ハチクマ、オオタカ、コノハズク、フクロウ等の希少猛禽類やヨタカ、サンショウクイ、アカショウビン、ヤマセミ等の希少鳥類が多数生息している場所である。計画地は、国有林で岡山県内でも数少ないブナ林で自然度の高い貴重な山地である。

以上のことから、（仮称）J R E 鏡野風力発電事業の計画は見直し、中止すべきである。

### II. 調査の方法について

#### 1. 鳥類調査について

(1)計画地およびその周辺は地形や樹木の繁茂により見通しが悪く、調査に十分な視野、視界を確保することは困難であると考えます。希少猛禽類の調査にあたっては、繁殖ステージごとに適切な調査時期を選定し、できるだけ多くの日数と長期間（通年）の詳しい生態や行動の調査を実施すべきです。

(2) 計画地の工事用道路周辺ではミゾゴイが生息している可能性がある。また周辺にはヨタカの生息、ブナ林近辺ではコノハズクが生息している可能性が高い、これらのように生息が把握しづらい鳥類や夜間に活動する鳥類の生態や行動を把握できるよう、適切な時期と時間に調査を実施することを求める。

## 2. その他の調査について

(3) 事前調査を踏まえ、環境要素の区分：動物、植物、生態系の中で、「計画地には、ヤマネ、カワネズミ、クマタカ、オオタカ、キクガシラコウモリ、及びコテングコウモリなどの主要な生息環境が存在し、周囲は天然記念物であるオオサンショウウオやヤマセミの生息地が存在している。」としているが、これはあくまで文献調査であり、これ以外にも貴少種が生息している可能性があるため夜間も含めて、詳細な調査を実施することを望む。

## III. 工事による改変面積について

(4) 大規模風車の建設に当たっては、超大型工事車両の運行が予想されるその車両を通行させるための道路について、最小限の環境改変としているが実際の道路幅、さらには大規模風車を建設する改変範囲等を明確に示すことを求める。

## IV. 配慮書に対する経済産業省大臣の意見と事業者の見解について

(5) 鳥類に対する影響で、「風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、専門家等からの助言を踏まえ鳥類への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、環境保全措置を講ずることにより、鳥類への影響を回避又は極力低減するようにいたします。」としている。大規模風車が設置され、その周辺が改変され新たな道路などができると草地が生じ、その草を求めてノウサギ等の小型哺乳類が生息するようになり、これらを餌とするイヌワシやクマタカが大規模風車の周辺に集まり、バードストライクが発生することになる。したがって、明確な保全措置のないままに事業を進めるべきではなく、本計画地での大規模風車設置は中止すべきである。

以上